

# キーワードから見る長崎大学

## 1 ロンドン大学と連携した新展開 熱帯医学・ グローバルヘルス 研究科

昨年から学生募集が始まった熱帯医学・グローバルヘルス研究科。構想段階から中心となった有吉紅也教授に取材しました。「日本はもっと世界の保健医療に貢献できます。そのための人材育成を行うのがこの新しい研究科です。これまで医歯薬学総合研究科と国際健康開発研究科に分かれていた熱帯医学専攻と国際健康開発専攻を新研究科のグローバルヘルス専攻一本にまとめ、熱帯医学、国際健康開発、ヘルスイノベーションの三つの修士課程コースを設けます。完全英語化とし、十月から始まります。新研究科では、新たに長崎に赴任する二名の外国人教授に加え、英国ロンドン大学衛生熱帯医学大学院の教授陣を継続的に招聘し、最前線の学びを保障します」。

有吉先生自身も留学経験のあるロンドン大学衛生熱帯医学大



「アフリカで医療活動を行いながら「医療だけでは解決しない。日本に帰って仲間を増やそう」と決意したと語る有吉教授。

学院。エボラウイルスを世界で初めて発見したピーター・ピオット博士をはじめ、熱帯医学・グローバルヘルスを牽引する世界トップクラスの研究者を数多く抱えており、連携するのと日本企業を巻き込んだ新たな展開も視野に入れています。昨年十月に東京で行われたキックオフイベントでは、ピオット博士をはじめ、野口英世アフリカ賞を創設した小泉純一郎元総理大臣、映画「風に立つライオン」(関連記事P19)で話題のさだまさしさんも登壇しました。国内外の企業からの参加者も多く、注目されています。



## 2 福島県立医科大学との 新たな共同専攻の設置構想 放射線に強い 医療人を育てる

「長崎大学の第二の地元は福島だ」これは片峰学長の言葉。そして平成二十八年度設置を目指して構想中の新しい修士課程が、長崎大学と福島県立医科大学共同の「共同災害被ばく医療科学専攻(仮)」。原爆後障害医療研究所の高村昇教授のお話です。

「この新たな共同専攻には二つのコースがあります。保健看護学コースは放射線や被ばく医療に強い保健師や看護師を育てるものです。福島県下はもちろん、全国にある原子力発電所が今後どうなるにせよ、被ばく医療に強い保健師は全国の自治体に必要です。もう一つが医科学コース。現実にアジアでは原発の建設が進んでいることから、将来的に国レベルでの被ばく医療対策やリスクコミュニケーションの留学生を受け入れます。教員として、世界保健機関(WHO)や国際原子力機関(IAEA)勤務経験のある専門家を招聘する予定です。また、福島県立医科大学では

## 3 モジュールとアクティブラーニング 学生の アンケート評価で さらに改善

二〇二二年から導入した教養教育システム「モジュール」方式は、テーマごとに八〜九科目の科目群を構成することにより、学生に二貫した教養基盤を作ることを目的としています。しかもモジュールの各授業は、グループワークやプレゼンテーションなどのアクティブラーニングを全面導入。この「モジュール」と「アクティ

6つの教室がアクティブラーニング仕様にリニューアル。個机なのでグループワークで島を作りやすく、四方のホワイトボードを使いプレゼンテーションも同時進行できます。学生アンケートでも、好意的に受け止められていました。



ブラーニング」が、実際に学生たちはどう受け止められたか、今後どう改善していくべきかが見えてくるデータがあります。大学教育イノベーションセンターの川越明日香助教のお話です。「学生による授業評価は、導入半年後の二〇二二年後期では、導入前より悪化しました。やはり改革は先生方にとって、従来までの知識を注入する授業方法とは異なるため混乱が起きたようです。しかし導入一年後の二〇二三年前期ではすべての項目の評価が回復しています。これは、二年目に入り、先生方が授業方法に慣れてきたことや、学生にモジュール方式のねらいが浸透してきたことが影響しているようです」。

もう一つ、「学生による教育改善のための協議会」のアンケートは、二〇二三年後期に行われました(回答率六十%)。「学部で学べない内容が学べた」「普通の講義より興味を持って、考える力がついた」という意見の一方、「一度選んだテーマを途中で替えることができない」「テーマごとに選択できる科目数や単位取得の難易度に差がある」といった意見も。これについては「テーマを二つまで選択可能に」「モジュールテーマ内の教員間の連携を密に」などの改善提案が出されました。なかには「先生方がモジュールの趣旨を理解していない」といった辛口コメントも。「アクティブラーニングを全面導入するのであれば、テストよりグループ活動やプレゼンテーションを評価の対象としてほしい」という建設的な意見もありました。結果をふまえて、学生協議会メンバーと学長との意見交換会もあり、今後は出された提案への対応が課題となりそうです。



みんなブツブツ言うわりに結果はよかった。つなぐ立場の学生協議会の役割をもっとPRしていきます

全体的にアクティブラーニングは肯定的でした。モジュール方式のねらいについては学長と学生の意識の差がまだある

学生による教育改善のための協議会。委員長の鷲尾昂祐さん(水産学部3年)と副委員長の真崎陽菜さん(医学部保健学科3年)

この長崎大学の拠点は、福島第一原発から三十キロ圏内でありながら、放射線の値が低く帰村が進み、復興モデルとなっている川内村に置いています。今後は、ここを「知の拠点」として、国内外から放射線医療を学ぶ人々を受け入れ、交流人口を増やして村を活性化させるという目標もあります。「福島の事故が起こったとき、放射線の専門家が少なかったのは一つの反省点。ならば、現場で役に立つ人間を新たに育てるプログラムを作るのが、福島に関わった人間の次の仕事です」と高村教授は語ります。



福島第一原発の事故直後は、長崎大学の緊急被ばく医療チームが現地入りし、医療支援を行いました。

# 海外研修でさらに磨きがかかる



稲垣歩海さん

二〇一四年の大きな動きの一つに、長年の悲願であった人文社会学部である多文化社会学部がスタートしたことがあります。この新学部は発足前から全国的に注目を集め、入学試験では募集定員一〇〇名に対し三六一名が志願し、入学者の出身県は二十三都道府県に上りました(海外からは一名)。多文化社会学部の教育には、いくつかの大きな特徴があります。



多文化社会学部も入っている総合教育研究棟1階には多文化ラウンジができました。ここでは英語力アップが図られるほか、コーチングフェローが常駐して学習相談にもつてくれます。

①多文化社会の包括的理解からはじまり、最終的には四つのコース(グローバル社会コース、社会動感コース、共生文化コース、オランダ特別コース)で専門性を磨く構成。②卓越した実践的英語力の獲得(目標は、英語圏の大学院にも進学可能なTOEFL iBT100)。③英語力と批判的・論理的思考力を問う特色ある入試。④一年次前期のトランジションプログラム(知の1000時間マラソン)。⑤海外留学の必修化。⑥国際性に富む教員団と英語による授業。⑦一年次には、コーチングフェローを含め、学生十人に三人の指導者がつく恵まれた学習環境。このカリキュラムが実際に動き出して半年強で、早くも成果が出始めました。入学直後の六月時点で四八〇点だったTOEFL iBTの平均点が、トランジションプログラムの徹底に鍛えられた結果、十月には二十五点アップの五〇五点になりました。

## 多文化社会学部学生座談会

英語で英語を学ぶ方がラク!

学生の皆さんは新しい多文化社会学部をどのように感じているのでしょうか。九月に行われた米国、カナダでの短期留学での各グループリーダーに集まってもらいました。まずは留学の話題から。

瀬戸 晩加さん/町なかでアンケートする機会があったのですが、現地の人たちがフレンドリーで気軽に話してくれたのが印象的でした。

新井 裕奈さん/カナダでもバスに乗っていたら、ドアが開いて車いすの人が乗込んでくるとき、みんな二音にざざと立って手助けするんです。日本だと見て見ぬふりですね。

大日方 エイミーさん/私たちは自分たちだけでチケットを手配して国立公園まで行きました。自転車に乗って楽しかった!

稲垣 歩海さん/私たちは大学で様々な国の学生といっしょに英語を学びました。事前にテストを受け英語力で六段階くらいに分けられるのですが、多文化社会学部の学生はみんな中よりのクラス。現地では高校までの受験英語とは文法も解りもまったく違うことを知り、英語で英語を学ぶ方が楽だと実感しました。でも三週間は短かくて一瞬のような...

全員/帰りに帰らなかった!

大日方さん/短期留学を経験して、みんな長期留学を狙おうと思ってますよ。

多文化社会学部についてはいかがですか?

大日方さん/入試は、過去問がないから対策のしようがなかった。

瀬戸さん/高校の先生からは「こんな学部もあるよ」と。そういえば私、鹿児島高校の進路指導室で見たチャイホーでこの学部の事を知りました。

全員/おっ!

稲垣さん/批判的・論理的思考力テストは面白かったですよ。さすが大学の問題!

大日方さん/ああいうのやりたかった! センター試験みたいに「覚えるだけで点数がとれるテスト」じゃない。

新井さん/入ってみて、前期の英語の集中講義は、思ったほど大変じゃなかった。

大日方さん/でもこれから専門的な英語になってくるのでレベルが上がってきますね。英語カフェも、テーマが国際法とか、ホットになってきた。日常英語を学ぶためだけにここにいるんじゃない、英語で何を学ぶか、ということ。

全員/この学部には後輩にもどんどん来てほしいね!



新井裕奈さん

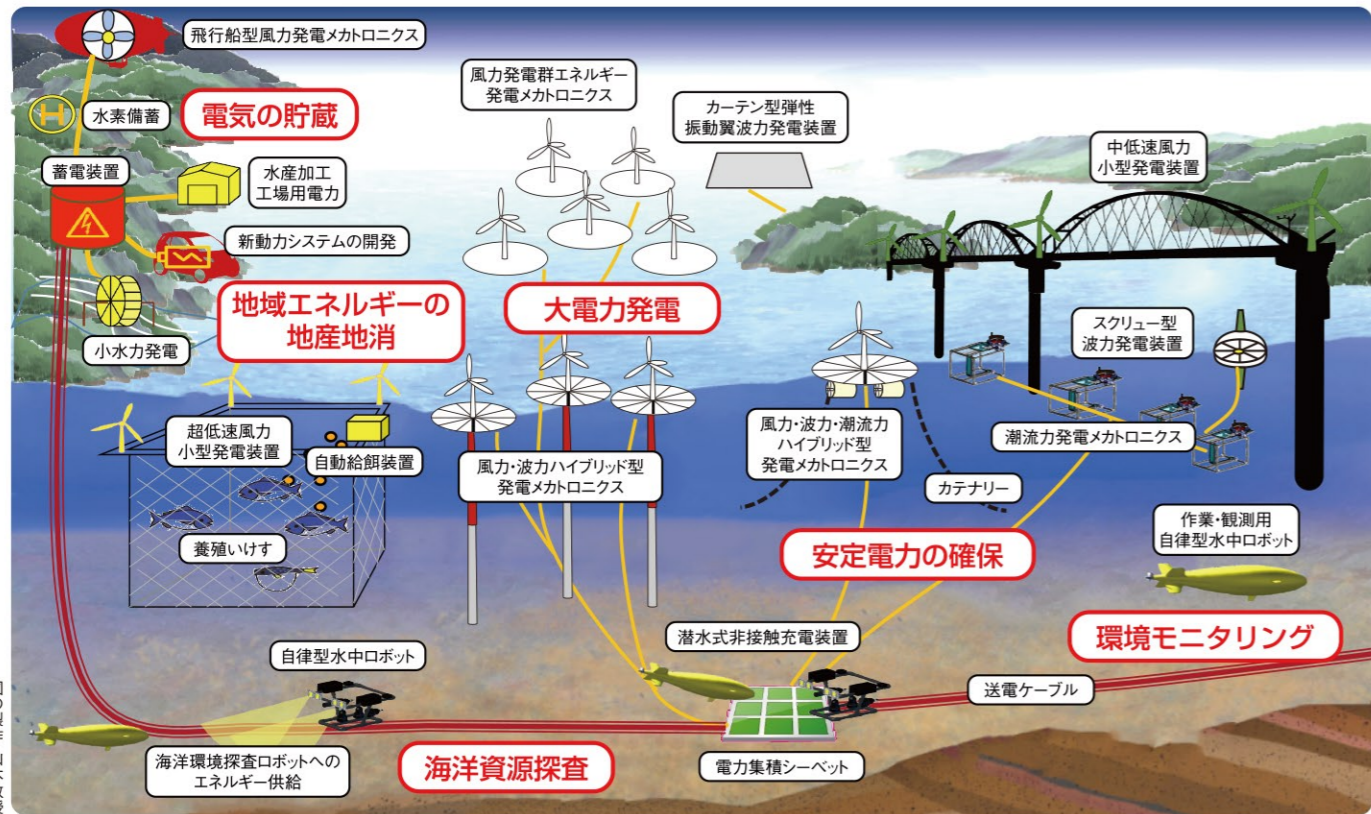


大日方エイミーさん



瀬戸晩加さん

## 海洋エネルギーを基盤とした海洋技術クラスターの構築



図の製作:山本教授

# 波力、潮力、洋上風力を電力に!

## 長崎海洋エネルギー活性化プロジェクト

再生可能エネルギーの開発は、世界中が取り組んでいる大きな課題です。そんななか昨年七月、長崎県は内閣府より「海洋再生可能エネルギー実証フィールド」に指定され、「長崎海洋エネルギー活性化プロジェクト」が動き出しました。立ち上げから関わる工学研究科の山本都夫教授に解説していただきました。

「これは長崎の海を舞台に、波力、潮力、洋上風力といった再生可能エネルギーを基盤とした海洋技術クラスターを構築しようという壮大な計画です。実施母体は、現在、四十三の企業が参加している長崎海洋産業クラスター形成推進協議会で、目的の三本柱は研究開発、人材教育、産業創出。長崎大学は研究と人材教育での貢献を期待されています。例えば送電・発電・蓄電などのシステム開発や、エネルギー資源のポテンシャルマップづくりなど、これまで長



2013年4月に長崎大学に来たばかりの山本教授。ロボット開発では多くの特許を持っています。



風力で電気を作り養殖に活用する案もあります。(画像提供:九州大学SFC研究会)



波が持つ無限のエネルギーポテンシャルを利用した波力発電機。